

## なまけもののコマタロウの話

むかしなまけもののコマタロウという名の子どもがいました。みんなが田植(たう)とう(え)の手伝(てつだ)いをしたり、草をかつたりして働(はたら)かっているのにコマタロウだけは何にもせずじ日(ひ)なたぼっこしながら空(そら)ばかり見(み)ていました。

「おい、コマタロウ。みんな働(はたら)いているよ。お前(まえ)もちゃんと働(はたら)かなきゃだめだよ。」

村(むら)の人はみんなそう言(い)います。でもだれが何(なに)と言(い)おうとコマタロウは平気(へいせい)な顔(かほ)で寝(ね)そべっています。

「それにしてもお前は一日(いちにち)中(ちゆう)、何(なに)をしているんだい。ちゃんと働(はたら)かないと大人(おとな)お

とな) になつてから困(こま)るよ。」  
「うーん。おらだつて働いているよ。」  
「働いているつて、一日中何にもせずつに空を見ているばかりじゃないか。」  
村の人はすっかりあきれてそれ以上は何も言いません。

ところがある日のことです。いつものように空を見ていたコママタロウが顔色(かおいろ)を変えて言いました。

「大變(たいへん)だ。大變なことが起こるよ。早く山に逃(に)げなきゃみんな死んでしまうよ。」

それを聞いた村の人たちはおおあわてです。そして大急(おおいそ)ぎで山に逃げこみました。それからまもなくして村を大きな津波(つなみ)がおそい村を

あつという間にひとのみにしてしまいました。コマタロウのおかげだ。コマタロウのおかげでみんな助（たす）かった。村のみんなは口々にそう言いました。

それからしばらくして村はすっかり元どおりになりました。コマタロウもまた前のとおり、一日中空をながめてなまけてばっかりいます。

「ほらごらんよ。またコマタロウがなまけてばっかりいるよ。」

「本当にこまった子だねえ。大人になったらどつするんだらうねえ。」

村の人たちはまたそうやってコマタロウの悪口を言い合つのでした。

